

## 礼拝プログラム ※主の導きにより変わる事があります

黙祷 ヨハネ 1:5 …… 御言葉に耳を傾け心を主に向けましょう。  
 \*賛美 …… 9番 聖なる、聖なる、聖なるかな  
 \*交読文 …… 10番  
 \*使徒信条 …… 会衆一同  
 \*頌栄 …… 175番 み霊よわれ歌う時  
 礼拝のための祈り …… 成田エクレシア:朴執事 天声:小林伝道師  
 賛美 …… 400番 十字架の旗、主の真理  
 メッセージ …… 不当に占拠している「先住民」を打ち破る強力な武器(2コリント 10:3-6)  
 御言葉を適用する祈り …… 会衆一同  
 賛美 …… 401番 み国へとめざす聖徒  
 幸せと成功の宣言文 …… 会衆一同  
 献金感謝の祈り …… パスター  
 報告 ……  
 \*主の祈り …… 会衆一同  
 \*祝祷 …… パスター

## 天声教会は

- ・御言葉なる主の御声を忠実に聞く教会。(ヨハネ 1:1、マタイ 3:17、17:5)
- ・主の御言葉を心で信じて義に至る教会。(ローマ 10:10)
- ・全能なる主の御言葉を口で告白し、救いに至る教会。(ローマ 10:10)
- ・受けた恵みを愛と忍耐をもって実践する教会。(第二テサロニケ 3:5)

## 祝福の御言葉(下線にご自身のお名前を入れて宣言して下さい)

\_\_\_\_は、肉にあって歩いてはいるが、肉に従って戦っているのではない。\_\_\_\_の戦いの武器は、肉のものではなく、神のためには要塞をも破壊するほどの力あるものである。\_\_\_\_はさまざまな議論を破り、神の知恵に逆らって立てられたあらゆる障害物を打ちこわし、すべての思いをとりこにしてキリストに服従させ、そして、\_\_\_\_が完全に服従した時、すべて不従順な者を処罰しようと、用意しているのである。(2コリント 10:3-6)

だから、\_\_\_\_は自分の持っている確信を放棄してはいけない。その確信には大きな報いが伴っているのである。神の御旨を行って約束のものを受けるため、\_\_\_\_に必要なのは、忍耐である。「もうしばらくすれば、きたるべきかたがお見えになる。遅くなることはない。わが義人\_\_\_\_は、信仰によって生きる。もし信仰を捨てるなら、わたしのたましいはこれを喜ばない」。しかし\_\_\_\_は、信仰を捨てて滅びる者ではなく、信仰に立って、いのちを得る者である。(ヘブル 10:35-39)

福音宣教をするにあたって、真っ先に与えられたしるしは、イエス・キリストの御名によって悪霊を追い出すしるしだった。主が、先祖アブラハムと、その子孫のために約束しておられた地、素晴らしく実り豊かな地に入るには、追い出すべき、邪悪で強力な先住民が住んでいた(民数記 13:22-24)。つまり、神の民がこの地を、悪しき者の支配から奪還し、祝福の良き地とするには、古く強大な「先住民」を追い出すための戦いは、不可避なのだ。私達も主が約束された、祝福の生活へ入るには、私達の中にひそむ罪深い性質や、主の言葉に違反してしまうくせ、居着いてしまった悪霊といった「先住民」を、追い払わなくてはならない。

イスラエルは、先住民の強大さや、城壁の堅固さを見て、怖気づいてしまい、こんな強大な敵とは、とても戦えない、彼らに比べれば自分たちはいなかのようだ、エジプトへ帰ろう、と言い出した。しかし、その巨人が立てこもる城壁の町は、85歳の信仰の老人によって、あつけなく占領され、平定された。その老人とは、エフネの子カレブである(ヨシュア記 14 章)。彼は40歳の時、主が「与える」と約束された地を偵察して回り、そこに強烈なあこがれを抱いた。特に、先祖アブラハム・イサク・ヤコブゆかりのヘブロンや、大人二人がかりで運ばなくてはならなかったぶどうを实らせた地に、彼は実際に足を運んで、「ここはわたしのもの！」「主が必ず与えてくださる！」と、信仰によって、わがものとしていた。しかし彼が、そのヘブロンを得たのは、その45年後だった。それは不信仰な同僚たちが足を引っ張り、彼らが死に絶えるまで40年も放浪しなくてはならなかったからだ。彼らは約束の地に入れず、かといって、エジプトにも戻れず、荒野で死んで行つた。私達はひと度、主に召し出され、水を渡った(バプテスマを受けた)からには、もう世に戻る事はできない。信仰によって約束の地に入るか、あるいは世にも戻れず、荒野をさまよった挙げ句、そこで死ぬか、である。

私達もカレブのように、主が約束された祝福の約束を、いつもありありと仰ぎ見、思い続けるべきだ。私達・信仰者に主が約束しておられる将来も、大人二人がかりで運ばなくてはならないぶどうを实らせるような、素晴らしい祝福の将来である。エデンの園のような幸せな夫婦生活を営み、御言葉に息吹かれた子供達を産んで増やし、育てていく将来を、また、幸せで実り豊かな仕事を営み、王として、祭司として地上を治め、イエス・キリストの福音を伝授して行く。そのような将来を、カレブのようにありありと望むべきである。今、私達の中に、約束の、祝福の将来に入る事を「できない」と気落ちさせ、怖じけつかせている、「要塞に立てこもる巨人」は、いるだろうか。それは「先住民」として居着いた、古い性質であるかもしれない。または、人生のある時に機会を与え、巢作りしてしまった悪霊かもしれない。それらの古き「先住民」が、どんなに強く見えても、処罰する武器は、ちゃんとある！ その武器を用いるなら、85歳でも、幼稚園児でも、誰でもあつけなく処罰し追い払う事ができる。なぜなら私達の戦いの武器は、肉のものではなく、むしろそれは、神の御前で要塞をも破壊するほどの力あるものである(2コリント 10:4)。

『わたしたちは「理屈(思弁)」を打ち破り、神の知識に逆らうあらゆる高慢を打ち倒し、あらゆる「思惑(考え)」を「とりこに(捕縛)」してキリストに従わせ、また、あなたがたの「従順(フパコエー)」が完全なものになるとき、すべての不従順を罰する用意ができています。』(同 4-6 節)

まず、2つのものを、自分の中から打ち砕かなくてはならない。一つ目は自分の「理屈(思弁)」、もう一つは、神の知識に逆らって立つ「高慢」である。御言葉に対する「でも」や「だって」は、神の言葉より自分の思弁のほうを高くする「高慢」なのだ。それらを自分の中から排除する時、最も重要な武器が整えられる。その武器が、「従順(フパコエー)」である。フパコエーは、「フボ(下に)」と「アコウオー(聞く)」の二語から成り、つまり、地面にぴたっと平服して聞き従う事である。主の言葉を前に、地にぴたっと平服して、聞き従う…これこそ、要塞をも打ち破る、何よりの「武器」なのだ。この、主の言葉に対する服従が「完成」する時、あらゆる不従順を、処罰する準備ができ、あらゆる敵を打ち破るのである。

私達の中から、苦々しい妬みや敵意といった古い性質や、悪霊が巢作りして要塞化してしまった「城壁に住む巨人」を追い払うのは、いつだろうか。主が約束された祝福の地を手に入れるのは、いつだろうか。40年後の、子供の世代になるだろうか…？ 今こそ、あらゆる思惑をとりこにしてキリストに服従させ、「従順」という、要塞をも打ち破る武器を完成させ、福音を邪魔していた一切を打ち破る皆さんでありますように！

